

平成29年度 学校評価自己評価及び学校関係者評価（外部評価）表

東広島市立高美が丘中学校

教育目標	知・徳・体の調和がとれ、思いやりと行動力のある生徒の育成	評価 4・・・目標を上回って達成 3・・・ほぼ目標どおりに達成 2・・・目標をやや下回る 1・・・目標をかなり下回る
経営理念	<ミッション・ビジョン> 『学んでよかった、学ばせてよかった』と生徒・保護者から期待され、信頼される学校づくりの再構築を行い、グローバル化する社会を生き抜いていく生徒の育成を図る。	

項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	評価		短期経営目標の達成状況
						7月	1月	
学習指導	1	○学びの変革に向けた取組の推進（グローバル化する社会に必要とする力の習得）	自主学習の充実	・学校(図書室、オープンスペースの活用)と家庭学習の連動	・家庭学習時間1時間以上90%以上 ・宿題等提出物100%	2	2	1年生は85.7% (7月) から71.5% (12月)、2年生は、86.7% (7月) から60.0% (12月) へ目標数値以下で減少する。3年生は66.2%(7月)から90.6%(12月)と増加し、目標数値を上回る。1年生は入学後の家庭学習への取組みで、2年生は「基礎・基本」定着状況調査への取り組みで意識付けができていくものの、それを継続していくことに課題がある。3年生では、進路実現に向け学習時間が増加していく傾向がある。提出物状況を定期的に提示することで、意識の向上を図ることができた。
			教師自身の主体的な授業改善と工夫の実施	・校内研修(管理職、指導教諭等による計画的な授業観察)の充実	・生徒授業肯定的評価90%以上	2	3	1年生は86.0%(7月)から91.5%(12月)と、目標数値を達成した。2年生は82.2% (7月) から84.4%(12月)と増加したものの、目標数値を達成しなかった。3年生は89.2% (7月) から92.0%(12月)と、目標数値を達成した。授業満足度はおおむね高く、授業改善の取組みが効果を上げていると考えられる。
			読書活動の充実	・学校図書室の充実 ・読書の習慣づくり	・図書室の貸し出し冊数10冊以上(1人当たり平均値)	3	3	1人あたりの貸し出し冊数については、1年生は21.8冊(前期)から10.7冊(後期)、2年生は14.0冊(前期)から9.2冊(後期)と減少したが、ほぼ目標値を達成した。3年生は9.4冊(前期)から6.2冊(後期)と、目標値を下回った。読書活動を充実するために、図書室の本を充実させ、授業や委員会活動を通して生徒の貸し出し数を継続して増やしていく。
			生活三訓の徹底	・校内環境整備や挨拶運動の実施等	・生活三訓にかかわる生徒意識調査90%以上	4	4	生活三訓すべての項目(挨拶・時間厳守・整理整頓)において、生徒意識調査では7月・12月ともに90%は超えている。昨年度と比較しても全体的に数値が高く、特に整理整頓の項目が昨年度は80%台であったが今年度は90%を超えており、生徒会等での取組が影響していると考えられる。保護者意識調査との比較では、「挨拶」については依然として開きがあることが課題である。保護者意識調査の「生徒がルールやマナーを守っている」については数値が上がっている。
生徒指導	2	○社会に通用する生徒の育成(寄り添いかかわりきる生徒指導の継続実践)	校内環境美化の整備	・心を育てる緑化活動の推進	・生徒意識調査90%以上	2	3	生徒意識調査の7月が79.9%、12月が84.4%と、どちらも目標を上回っていない。ただし、約5%上昇しているのは、春～夏と夏～冬の作業量の違いや、秋に菊やマリーゴールドが咲くことでの達成感があるのではないかと考えられる。昨年度が70%台であったことと比較すると、今年度の新たな取組の成果であると考えられる。
			委員会活動・部活動の充実	・行事や大会を通じて生徒の自主性を育成	・生徒意識調査90%以上	4	4	委員会活動・部活動のそれぞれに関する生徒意識調査において、7月・12月とも90%を大きく超えている。特に委員会活動や係活動については98%台と、意識の高まりが見られる。各生徒委員会において今年度実施した呼びかけやチェック、生徒朝会での発表、コンクール企画などを生徒主体で取り組んできたことによる成果であると考えられる。部活動においても、生徒を中心にして積極的な活動が展開されており、大会結果などで成果が出ている。
			小中一貫校に向けて積極的な推進	・小中学校教員の積極的な情報交換	・小中連携合同研修会の年間2回以上実施	3	3	・第1回/8月21日(月) ①「9年間を見通して、小学校、中学校のそれぞれの校種で何ができるか、」というテーマにおいて、3つの視点で小中お互いの現場と課題、育てたい児童・生徒の姿を出し合い、その後グループに分かれて協議を行った。 3つの視点：A：「教科指導」、B：「総合的な学習」、C：「生徒指導」 ・第2回/2月9日(金) 高美が丘小学校教育研究会へ中学校教職員が参加した。
信頼される学校	3	○開かれた学校づくりの推進(小中連携と学校緑化活動の取組をさらに充実発展)	学習活動(理数教育、英語・外国語活動など)及び行事等を通じた交流活動の充実	・高美が丘中学校への進学率85%以上	2	2	・授業での交流 ①数学・算数科の交流(研究主任が校内研修に参加、指導案作成に助言、年間10回) ②英語科の交流(年間指導計画の交流) ③緑化活動で交流(1年生が実施した「高美が丘グリーンプロジェクト」に高美小3年生90名が参加。 高美小「高美が丘サミット」に中学校緑化担当職員が参加。) ④オープンスクールの実施(7月6日6年生対象 授業・部活動体験) ⑤夏祭り(音楽部と小学校「高美が丘の風」とのコラボ) ⑥広響楽四重奏演奏会(3月20日開始予定) ・平成30年度進学率 71%(昨年度61%)	
			地域貢献活動の実施	・保護者、地域への情報発信 ・地域行事への参加及び連携事業の実施	・保護者満足度調査90%以上	3	3	・保護者地域への情報発信 ①学校だより等定期的に発行 ②校外掲示板の活用 ③HPの更新 ・地域行事への参加と貢献 ①きれいな町づくりキャンペーン(6月) ②夏祭り(7月) ③区民文化祭(10月) ④777-マイ#キャンペーン(11月) ・保護者アンケートの結果より、情報発信についての満足度は、95.8%(7月) 97.6%(12月)と年間通して満足度は目標を達成した。地域行事への参加については、72.9%(7月) 59.0%(12月)と昨年度に引き続き、課題が明確になった。来年度の取り組みがさらに必要である。

改善の方向性

(学習指導)	○主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善と工夫 ○各種検定への受検 ○学力補充学習の充実と学習習慣づくりの支援 ○図書環境の充実と読書活動の充実	学校関係者評価(外部評価)
(生徒指導)	○いじめアンケートの計画的実施等による未然防止 ○生徒委員会等の取組を通じた「生活三訓」の日常的実践 ○不登校生徒の状況把握、情報共有、保護者連携及び関係機関等との連携・充実 ○生徒へ寄り添い、かかわりきる指導の徹底 ○生徒指導の三機能を活かした授業スタイルの確立	・学校の外から見て感じることには、先生や生徒が校内では非常に楽しく生活しているように見える。中学生はテレがあったり恥ずかしかったりと非常に精神的に不安定な時期なので、毎日様子が違うとおもう。大人が生徒の気持ちをコントロールしながらかかわったり、地域で行事に参加できる環境づくりをしていければよいとおもう。 ・学校の先生は非常によく頑張っており、学校の努力は既に限界に来ていると言われている。保護者や地域が支えないとたない状況になる。地域の子どもは地域で守ることが大切だ。 ・子どもが朝食を食べる割合はどれくらいか、なぜ食べないのか理由を学校は把握できているか。この地域では貧困は少ないが、地域によっては「子ども食堂」等の取り組みが行われており、地域が学校と一緒にやってくれるのが大切だと考えている。 ・我々が学校の先生のことをどれだけ理解しているかが大切。先生方の本音を聞きたい。そしてその気持ちを反映させ、見守っていきたい。
(信頼される学校)	○「学校関係緑化活動」を通じた保護者、地域との連携のさらなる充実 ○学校だよりの配布及びHPの更新 ○積極的な地域行事への参加 ○小学校と連携した挨拶運動、授業交流、合同研修会など積極的な交流活動の実施	・進学率が昨年より10%アップしているのはすごい事だと思う。数字の上がり方に逆に不安を感じる。学校外の要因ではなく、本当の意味で学校の努力が評価されているのであればよいとおもう。 ・小中一貫校については、地域として賛成できるプランではなかった。小中合同研修会で子供のことを考えた交流をしている内容をもっと教育委員会に伝えることはできないか。子どものためになる小中一貫校にしてもらいたい。 ・学校評価は数値にこだわるのではなく、プロセスを大切に考えたい。学校の先生は数値以上に非常に頑張っているとおもう。